

平成29年度学校自己評価システムシート (県立久喜特別支援学校)

目指す学校像	児童生徒の社会的自立の力を育む学校
--------	-------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育支援プランに基づく授業の充実と児童生徒が達成感を得られる授業づくりを進める。 2 社会的自立に向けて、教育課程や指導内容を工夫改善し、一人一人のニーズに応じた指導を進める。 3 共生社会の実現に向け、教職員の専門性を生かした組織的な地域支援や交流を進める。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標				年 度 評 価 (1 2 月 1 3 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	支援プランは、児童生徒の実態把握を基に保護者との共通理解を図りながら作成され、日々の指導は、その支援プランを踏まえて保護者と連携しながら進められている。引き続き指導の充実を図るため、より一層の教職員の専門性の向上を図り、「児童生徒の障害特性に合わせた授業づくり」を進めることが課題である。	障害特性に配慮した授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・教材、教具の工夫を行う。 ・各学部研修のまとめを作成し報告会を実施する。 ・外部講師を招いての全体研修会を実施する。 ・県内特別支援学校の研修会参加及び校長会主催専門研修会への参加を促す。 ・夏季休業中に障害特性に関する研修会(自閉症、愛着障害等)を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が夢中になって取り組む授業づくりができたか。 ・研修報告を基に学部間で意見交換ができたか。 ・全体研修会を効果的に実施してきたか。 ・専門研修会への参加者が、昨年度比で増加したか。 ・研修会を実施し、参加者が指導の手がかりを得られたか。 	<p>○専門性を活かした指導支援が進みつつある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートでは、障害特性に応じた授業づくりにおいて、9割以上の保護者から「できている」「だいたいできている」の評価を得た。 ・学部研修では、課題別学習についての研修を行い、全体研修会では、具体的な内容での研修が進められ、スケジュールボードを含む視覚支援の有効活用やファシリテーションの活用など、その後の指導に生かすことができた。 ・専門研修への参加は7名、相乗り研修には、14名が参加し昨年度から微増した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・障害特性についての理解を深めるため引き続き研修を重ね、適切な指導支援に結び付けていく必要がある。今年度具体的な内容の全体研修が実施され授業づくりの参考となった。次年度も指導支援の参考となる具体的な内容での研修を実施する必要がある。また、校外の研修にも目を向け引き続き専門性を向上させる必要である。
2	高等部教育課程の改善、円滑な実施により、その効果もみられる。また、小学部においても一部教育課程が変更され、自立活動の位置づけが明確になった。 小・中・高の系統性を視野に、引き続き教育活動の実施状況を検証するとともに、教育課程の改善及び指導内容の工夫・充実を進める必要がある。	教育課程、指導内容の工夫改善	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部において教育課程の実践検証を行う。 ・年間指導計画に基づく、指導内容の反省、改善を行う。 ・教育課程検討委員会で小・中・高の教育課程における系統性を築く上で柱となる方針について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を明らかにし、次年度の改善に向けた検討が進められたか。 ・指導内容の反省を定期的に行い、次の指導に生かすことができたか。 ・教育課程の系統性を築く上で柱となる基本方針の検討が進んだか。 	<p>○指導・支援内容の工夫改善が進んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度から小学部高学年の教育課程を一部変更したことにより、自立活動の時間が明確になり指導が充実した。 ・各学部とも指導内容について学期末に評価反省を行い、指導支援のあり方について確認と改善を行った。 ・新学習指導要領の改訂について周知するため校内説明会を実施した。 ・小・中・高の系統性については、部署内での検討に留まり、全校提案には至っていない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に則った教育課程の編成を進めるにあたり、さらに新指導要領の理解を図るため、研修機会を設ける必要がある。また、新学習指導要領に基づく教育課程を編成するうえで要となる学校教育目標を児童生徒の立場からの目標に変える必要がある。系統性ととも、小・中学校からの転入学児童生徒の学びの連続性についても検討していく必要がある。
3	特別支援教育コーディネーターによる小中学校への相談支援は増加傾向にある。支援籍学習は実施希望者全員が小中学校での共同学習を実施し効果を上げている。 より一層センター的機能を発揮するため、これまで以上に教育委員会や小中学校をはじめ地域や関係機関と連携を密にする必要がある。また、情報発信を引き続き行っていく必要がある。	センター的機能の充実と情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・支援籍学習連絡会を実施する。 ・学校間交流を効果的に実施する。 ・高等部を中心に久喜市民まつりに参加し、いちようまつりやいちようバザールのチラシを配布する。 ・特別支援教育コーディネーター連絡協議会への参加案内を近隣高等学校に広げ協議会を開催する。 ・ボランティア養成講座募集チラシの配布先を拡大する。 ・地域連携たよりの外部機関(公民館等)への配布掲示を進める。 ・組織的地域支援の在り方について、検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援籍連絡会の実施により円滑な支援籍学習を進められたか。 ・交流会を実施し、同年代生徒との交流を深められたか。 ・チラシ配布により行事開催について周知することができたか。 ・高等学校からの参加があったか。また、案内発送校の8割の参加があったか。 ・ボランティア養成講座への参加者が前年数を上回ったか。 ・学校支援ボランティアの活動を地域に周知できたか。 ・組織的地域支援について検討が進んだか。 	<p>○地域の要請に応えセンター的機能を発揮した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学前施設や小学校、中学校からの要請を受け、コーディネーターを中心に巡回相談を行った。今年度の巡回件数は、延べ169回であった。また、高等学校からの2件の相談に対応した。 ・学校間交流を工夫し、小学部は交流校が来校しての交流になり、環境の変化が軽減され落ち着いて交流活動を行えた。支援籍学習も13名の通常学級支援籍、2名の特別支援学校支援籍が円滑に実施された。 ・ボランティア養成講座の募集チラシを公民館に置いていただいたが、今年度の養成講座への参加者数にその効果は見られなかった。地域連携たよりは、年度末に発行予定である。 ・組織的地域支援については、全校提案に至らなかった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校間交流の効果的な実施、支援籍学習の充実、また本校の情報発信を引き続き積極的に行っていく。支援籍学習についても有意義な共同学習となるよう保護者の希望に対応し円滑に実施する。また、高等部を中心に久喜市民まつりへの参加など、今後も地域との交流に努める。ボランティアの育成については、養成講座のチラシ配布をさらに拡大する。 ・特別支援教育コーディネーターへの負担が多くなる中、組織的にセンター的機能を発揮するあり方を模索する。

学校関係者評価
実施日 平成30年 2月 5日

学校関係者からの意見・要望・評価等